

国連防災世界会議に関する単語シート

＜基本ワード＞	
国連防災世界会議	国際的な防災の枠組みを決めるための会議。2015年3月14日～18日の5日間、仙台市国際センターを会場に、国連加盟193カ国の政府代表団・国際機関・国連認定NGOなど5,000人以上が参加すると見込まれている。第1回は1994年に横浜で、第2回は兵庫県（神戸）で開催。約10年に1度の全体会議で、今回の仙台が第3回目。英語名は、WCDRR（UN World Conference on Disaster Risk Reduction）。
HFA 兵庫行動枠組	「Hyogo Framework for Action」の略称で、唯一の国際的な防災の指針。2005年の第2回国連防災世界会議で採択され、開催都市名を付けたことから「兵庫」となっている。2005年～2015年までの10年間、各国の防災政策立案や法整備などに役立った。2015年で期限を迎えることから、第3回国連防災世界会議で新たな枠組み・文書が策定される。2015年9月の国連総会で正式に採択し発行される予定。
UNISDR	ISDR（International Strategy for Disaster Reduction）は、国際的な防災を担当する国連機関として2000年に設立。本部事務所はスイス・ジュネーブ。国連防災世界会議の主催事務局としての活動のほか、2年に1度の定期会合「防災グローバル・プラットフォーム」の運営や、防災普及国際キャンペーンなども行っている。
PrepCom	「プレップコム」。国連防災世界会議に向けた、政府間準備会合。第1回目は2014年7月に、第2回目が11月にジュネーブで開催され、日本からの代表団やJCC2015も参加した。第3回国連防災世界会議開催前日の3月13日、仙台で「PrepCom3」が開催される。
本体会議	ポストHFA（HFA2）を策定するため、各国政府代表団・国際機関・国連認定NGOなどが参加する。会場は仙台国際センターで、参加認証を持つ団体でかつ事前登録を行ったメンバーだけが参加できる。各国の「声明発表」、「閣僚級ラウンドテーブル」、テーマ別の「ワーキングセッション」、事前応募制のミニステージ「イグナイトステージ」などが行われる。
パブリック・フォーラム	参加資格を問わない一般公開事業（市民向けイベント）の総称。本体会議と比較して「サイドイベント」と呼ぶ人もいる。日本政府と仙台の実行委員会が主催する「総合フォーラム」、国際機関や研究者、CSO持ち込みで実施する「シンポジウム・セミナー」、同じく持ち込みのブース・ポスターによる「世界の防災展」、市民協働と防災、女性と防災を取り上げた「ふたつのテーマ館」、商談を行う「防災産業展」、市民向けのイベントやフードコートが並ぶ「防災のひろば、国際交流のひろば」が予定されている。
内閣府（防災担当）	日本の省庁で防災を扱うのは、内閣府（防災担当）。毎年、「防災白書」をまとめたり、大規模広域災害の訓練なども主催している。第3回国連防災世界会議は、外交の場でもあり、東北復興との関係も強いことから、外務省・復興庁も関係する会議だが、総合的な窓口は内閣府が行っている。
CSO 市民社会組織	NGO/NPOよりも少し広い意味で使われる民間・市民グループのこと。社会的企業、労働組合、宗教団体、学生グループなども含まれる。日本では、NGOは海外、NPOは国内で非営利の社会貢献活動と別物のイメージがあるので、国連防災世界会議に向けては「CSO」の表現を使うことが多い。
JCC2015	「Japan CSO Coalition for 2015 WCDRR」の略で、日本語正式名称は「2015防災世界会議日本CSOネットワーク」。第3回国連防災世界会議に向けて、東日本大震災をはじめとする日本のCSOや被災当事者による教訓を世界に発信しようと、2014年1月に正式発足した市民ネットワーク。現在100団体以上が参加し、日本のCSOのとおりまとめ・海外CSOとの窓口のような立ち位置でも活動している。
＜会議用語＞	
DRR	「Disaster Risk Reduction」の略称で、「防災」の意味。会議に参加する海外ゲストは一般的に使用する。
防災と減災	「防災」は、災害を未然に防ぐ取り組み。「減災」は、災害発生後の被害を少なくするための取り組み。

国連防災世界会議に関する単語シート

減災サイクル	英語では、「Disaster Management Cycle」。日本語では、ほかに「災害サイクル」などと表現されることもある。発災後、「緊急対応」→「復旧・復興」→「被害予防＝防災」→「被害軽減＝減災」と、各ステージをつなげて取り組むことで、災害に強い社会を目指すための考え方。
MDGs/SDGs	「MDGs(ミレニアム開発目標)」は、2015年までに世界の貧困を半減させようとする国連と加盟国の開発目標。2015年に新しい枠組みに切り替わる。ポストMDGsの交渉の中で生まれてきた「SDGs(持続可能な開発目標)」は、貧困だけでなく気候変動や生物多様性などの環境面・社会面での目標を設定し、同じく2015年からの発行を目指している。
メジャーグループ	国連防災世界会議は、UNISDRを主催事務局に、11の議長国(タイ、フィンランドの2カ国が共同議長)と、9つ(「女性」「子ども・若者」「農業者」「先住民」「NGO」「自治体」「労働組合」「科学・テクノロジー」「ビジネス・産業」)のセクター別メジャーグループが設けられ、担当団体をオーガナイズング・パートナー(公式開催パートナー)ている。
GNDR	Global Network for Disaster Reductionの略。2005年の第2回国連防災世界会議で、NGOやCSOの参加を促せなかったこともあり、各国で災害救援や防災に取り組むCSOの国際ネットワークとして、UNISDRも協力して設立した。防災分野では、世界最大のCSOネットワーク。
レジリエンス	災害などの困難に対する強さを表す言葉。日本語では「強靱性」と訳されたりもするが、耐久性だけでなく、復興や再生の力を含むことから「回復力」や「しなやかさ」と表現する人もいる。
マルチセクター	文字通り、行政や自治体、研究者、民間企業、CSOなどのセクターを越えた連携・協働を表す言葉。災害対応や防災は、誰かに限られた取り組みではなく、それぞれの役割を果たしながら、様々なセクターが協力することが必要とのメッセージは、第3回国連防災世界会議では特に前面に出てくる。
産業災害・複合災害	自然災害だけでなく、近代化が進むなかでは大規模な人災や産業災害(火災、事故、化学物質の流出など)のリスクも増えている。自然災害と原発事故が重なった東日本大震災の福島は、産業災害かつ複合災害の最大の事例として、防災分野でも大きな注目を集めている。
「レジリエント・シティ」キャンペーン	2005年の「HFA」で重点課題とされた自治体の防災取り組みを促進させるため、UNISDRが呼びかける自治体向けキャンペーン。防災教育や予算配分など取り組むべき10の項目が設けられている。現在約2,440の都市が加盟(日本の加盟都市は4つ)。「参加」「模範都市(ロールモデル・シティ)」「チャンピオン」の3つのステータスがある。
＜ CSOの取り組み ＞	
市民防災世界会議	JCC2015が企画運営する第3回国連防災世界会議パブリック・フォーラム最大の市民企画。「市民協働と防災テーマ館」の特別企画として、3月14日-16日の3日間は9つのテーマ別セッションを、3月17日の最終日には1,000人規模のメインイベントを行う。
市民協働と防災テーマ館	「女性と防災テーマ館」と並ぶ、第3回国連防災世界会議パブリック・フォーラムの目玉となるふたつのテーマ館のひとつ。会場は、仙台市市民活動サポートセンター。運営は「防災からまちづくりを考える実行委員会」。期間中、「市民防災世界会議」を含め、様々なCSOによる持ち込み企画が実施される。
防災からまちづくりを考える実行委員会	「市民協働と防災テーマ館」を運営する実行委員会。せんだい・みやぎNPOセンターを事務局に、仙台・泉青年会議所、大学間連携災害ボランティアネットワーク、JCC2015、仙台市市民活動推進課で構成され、オブザーバーやその他協力団体もある。
ピープルズ・パビリオン	市民向けの「防災のひろば・国際交流のひろば」が催される仙台市勾当台(こうとうだい)公園には、海外からの会議参加者と日本の市民が自由に交流できる多目的市民交流テントが設置される。運営はJCC2015。インフォメーションやwifiフリーのカフェ機能のほか、小規模な会議やセミナーを持ち込むこともできるフリースペース。

国連防災世界会議に関する単語シート

<p>フィールド・ エクスチェンジ</p>	<p>仙台市や東北各県では、海外からの参加者向けに25本の「被災地公式視察」と、会議終了後の打ち上げ・東北観光にあたる「エクスカージョン」が実施される。これら行政主催のスタディーツアーとは別に、海外からの会議参加CSOに向けてJCC2015が主催・協力するのが「フィールド・エクスチェンジ」。南三陸、石巻、福島での実施を予定している。</p>
<p>ブックレット 『福島 10の教訓』</p>	<p>原発事故に見舞われた被災国の責任として、現場と市民目線から10の教訓をまとめたブックレット。主に海外の原発立地国や隣接国に向けた原子力防災のためのハンドブックとして、3月の国連防災世界会議までに日本語のほか英語、韓国語、中国語、フランス語へも翻訳する。その後、トルコ語やベンガル語などへの翻訳も予定している。</p>
<p>「Road to Sendai」 キャンペーン</p>	<p>3月の国連防災世界会議に集まる各国のリーダーに、10万人の市民の声を届けようとする国際キャンペーン。40文字程度で、リーダーに伝えた防災のメッセージや「わたしの防災宣言」などを、専用のTwitterやfacebook、ホームページから投稿できる。</p>

この単語シートは、2015防災世界会議日本CSOネットワーク(JCC2015)参加団体へのキーワード紹介のために作成しました。国連防災世界会議には、その他たくさんの機関・団体の皆さまが関わるとは思いますが、それぞれのキーワードを付け加えるなどのアレンジをして、ご活用ください。

2015防災世界会議日本CSOネットワーク共同事務局
ピースボート災害ボランティアセンター
作成:合田茂広